

授業づくり・学級づくり ハンドブック 2

家庭の温もり

安心・承認・称賛
学校と連携

育つのは子ども自身

教師は、よりよく育つ
環境をつくりましょう

豊かな 経験で育つ

楽あれば苦あり

ほめる
認める

名前を丁寧に書く

楽しい授業

教室にごみが
落ちていない

最後まで
話が聞ける

はいっ！
の返事

一人一人が
活躍する授業

時間を
守れる

～です。
～ます。

ひとりぼっち
がない

学級経営は土づくり

授業づくりと学級づくりは一体となって進めます。

子どもが育つ土には、栄養（学び・意欲・習慣）と潤い（思いやり・笑顔・感動）が必要です。まずは、上のポイントから確認していきましょう。



新宿小の先輩先生に聞いてみた！

～『学級づくり』こんなとき、どうしてる？～

4月 学級開き

はじめの何日かは、子供は教師の様子をうかがっています。また、教師の言うことを素直に受け入れる時期です。黄金の3日間で、先生との約束事やクラスのルール、学習規律をきちんと伝えることが大切です。

心がけていることは？

- 笑顔！明るく！児童をよく観察！
- バランス（仲良く⇔規律）
- 4月は厳しく指導。
- 楽しく安心できる雰囲気づくり。

優しくするのは、
後からでも大丈夫！

ゲームなどで心と体を
ほぐすのもいいですね。

何を話す？

- どんな学級・学年になってほしいか。
- 学校教育目標・学級目標に向かって力を合わせて活動していくこと。
- クラスのみんなで仲良くする・協力することの大切さ。
- 楽しく過ごすためにはみんなの力が必要なこと。
- 悩んでいること困ったことがあったらいつでも相談にのるということ。
- 担任として「絶対に許さないこと」「約束事」



絶対に許さないこと

- ・自分と他人の心と体を傷つけたとき
- ・嘘をついたとき
- ・いじめや差別で人を傷つけたとき
- ・命に関わる危険な行為をしたとき
- ・同じことを3回注意されても直そうとしないとき

など

約束事

- ・暴力を振るわないこと
- ・間違えてもよいということ
- ・あきらめないこと
- ・お互いの良いところを見つけること
- ・やるべきことをちゃんとやること
- ・ルールを守ること
- ・うそをつかないこと
- ・けじめをつけること

など

『学級の雰囲気づくり』どうしてる？

先輩先生はこんなことを意識しています！

子供に対して…

- 優しい声掛け。
- 楽しみながら会話する。
- 時に父・母・兄弟になって接する。
- 共感的立場で話を聴く。
- おとなしい児童との交流も大切に。

「教室は
まちがうところだ」

自分自身で…

- 笑顔でいること。
- 何事も前向きに考える。
- 安心できる場所にする。
- 本気で取り組んでいるか。
- 本気で理解しようとしているか。
- 言葉遣い。

「みんなちがって
みんないい」

「人に優しく
自分に厳しく」

指導の時は…

- 「静」と「動」の切り替え。(時間と心のけじめも大切)
- 少しでも成長していることを認め、広げる。(子供の人格を否定しない。)
- できた・できないに関わらず、努力したことを認める。
(挑戦してえらい。間違えてもいいんだよ。)
- 4月に話したことを繰り返し指導する。
- 気になる行動については、すぐに解決する。
- 失敗や間違った行動をしてしまった児童の指導は個別に行う。
- 友達同士では注意するのではなく、教え合う。
- 児童のよかったところをクラスで共有する。
- 自分たちで学級を作っていくという意識を持たせる。
- 友達の悪いところではなくよいところを見ること。

授業中に意識していることはどんなこと？

導入

- 興味を持たせる工夫。（日常の会話を織り交ぜる・数字は変えずに問題文の名前等を変える）
- めあてを明確にする。
- 本時のねらいと同時に、学級経営のねらいも意識する。

展開

- 机間指導で花丸や声掛けをして、発表の後押しをする。
- 思考する時間を確保する。
- 話し合う機会を多く取る。
- よいとおもった友達の考えを取り入れるように促す。
- 教え合うこと、自分の考えや思ったことをノートに書き込ませる。
- 指名する順番・意図的指名。
（自信の度合いを手で示して挙手させる。あえて自信のない子を指名して、自信を持たせる。）

終末

- 課題とまとめが正対しているか。

全体を通して

- 分からないままにしないように、あとで教えることを伝える。
- ノートのマスと同じように板書する。
- 授業の中で体を動かす。
- 「いいね」「がんばったね」などの肯定的な声掛け。
- その子なりの努力や進歩を認め、褒める。
- 「なるほど」「そうなんだ」と思わせる。できないときは1時間の中で1回は笑わせる。
- 失敗や間違いをおそれない雰囲気づくり。

児童との距離感を保つためには？

- 甘えさせるときは1日1回などと決める。(何で今、甘えたいのか。)
- (次にどのような段階へ進むのかを念頭において甘えさせる時は甘えさせる。)
- 距離感を近づける時は、児童の横にまわって視線を合わせる。
- 一人一人の話を聞く。
- みんなで決めたことは自分も行い、楽しむ。
- 教師だけがルールを決めるのではなく、みんなで考えながら取り組む。
- 児童の実態や家庭環境に応じて変える。
- 丁寧な言葉遣い。(～です。～ます。～さん。)
- 時と場に応じて使い分ける。(授業中と休み時間など)
- 自分自身節度を意識する。
- 礼儀を教える。
- 何でも話してよいことを伝えるが、わがままを言うこととは違うことを伝える。
- 指導すべきところは、何が問題なのかしっかり伝える。
(友達感覚のような言葉遣いや態度をとった時)
- ゆずらないところは絶対にゆずらないという毅然とした対応をする。

子供を褒めるポイントは？

褒め方

- その場ですぐに。
- 具体的に。
- 周りにも聞こえるように。
- 大げさに。
- 自然に。
- 写真や掲示物で。
- 個人的に。
- 全体の前で。
- 自主学习ノートにコメント。
- 3ほめて、1叱る。

内容

- 努力や成長をほめる。
- 結果だけでなく、過程をほめる。
- 変化に気づいてほめる。
- 些細なことでもお礼を言う。

使い分けが
大事！！

「〇〇だったのが
できるようになったね」

「髪を切って似合っ
ているよ。さっぱりしたね」

「苦手な〇〇なのに
一口食べられたね」

「〇〇してくれて
ありがとう」



～先生からのメッセージコーナーについて～

子供たちが毎日の生活を共にする教師からの言葉で、一人一人の自己肯定感が高まったら嬉しいですね。自分のことを褒めてくれる人とは心の距離も近づき、信頼関係を結びやすくなります。信頼関係が築ければ、指導も伝わりやすくなり、学級としても一年間で大きな成長を遂げるでしょう。

とは言え、日々の慌ただしさの中、なかなか実践できないのも事実。「何を伝えれば・・・」「せっかくなにかあったのに、伝え忘れてしまった！」など。

ここでは、現場の先生たちのアイデアを紹介します。ぜひ参考にしてください。

【伝えることを忘れないための手立て】

① 「朝の会」の進行表に入れる

→1日を気持ちよく過ごせるようになるべく早い時間に伝えられるとよい。

△毎日続けるには課題がある。1時間目に間に合うようにするには… 朝は連絡事項がたくさんある…

② ノート等記録できるものを用意する

→例えば、先生の机にノートを一冊おいておき、友達のよいところを見つけた児童や先生がメモをする。次の日の朝に教師が紹介する。書いた児童と書かれた児童、両方を褒めることができる。所見にも活用できる。

③ 先生からのメッセージの札を掲示する

→教師が伝えることを忘れないようにするために札を用意する。忘れない場所に貼っておき、子供たちに伝えたらはずしたり、裏返しにしたりする。



掲示用 札

④ 「帰りの会」と「朝の会」の2回紹介する

→見つけた日の帰りの会、次の日の朝の会、2回紹介することでよい行いを広めていく。忘れないうちに帰りの会で共有し、次の日の朝に改めて話すことで友達のよい行動をまねする児童が増えるのではないかな。

⑤ 児童のよい行いを付箋に書いて、教師間で共有する

→付箋等、記録できるものを職員の名札の裏などに入れておき、気付いたよい行いをメモしておく。様々な先生に見られていることで、常に意識して行動できる児童が増える。掃除の時間など、担任だけではみとれない様子を知ることができる。所見にも活用できる。

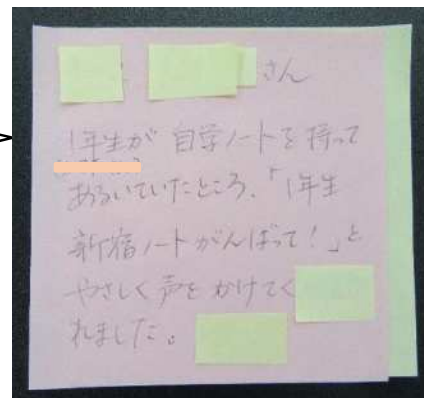
例 あいさつ・掃除・給食等、学習や生活での出来事全般について



付箋に書くこと

○年○組 名前○○ ○○

いつ・どんなことが・どうよかったのか



褒めるだけではなく、時には教師自身のことを話すのも大事♪
子供たちは先生のプライベートの話が大好きです。

趣味の話、先生の失敗談、先生ってどんな人……などなど

先生も学級の一員ですから(*^^*)

学級開きアイデア集

春休み

始業式

2日目

3日目

1年間の下準備	出会いを喜び、希望を語る～ほめてスタート	生活システムをつくる ～組織と約束づくり～	学習ルールを確認する
<p>チーム新宿スタート 助け合いながら信頼できる仲間づくり</p>	<p>♡5Sのほめ言葉 さすが・すてき・すごい・すばらしい・最高!</p>	<p>♡1人1人を大切にした 安心感の得られる学級づくり</p>	<p>♡よりよい行動を具体的な 姿で称賛し広める</p>
<p><input type="checkbox"/>職員会議 ・校長先生の学校経営方針を聴く ・自分の役割分担を確認する</p> <p><input type="checkbox"/>学年会 ・学校経営方針に基づいて、学年教育目標を決めていく ・児童の実態と担任の思いに基づいて、学年運営の指導観を決める ・指導観→学年のテーマ→学年だよりのタイトル ・共通認識で行動する ・先生の得意分野・強味→分担 ・その他事務仕事をする</p> <p><input type="checkbox"/>時間割編成 ・職員会議資料をよく見て行う</p> <p><input type="checkbox"/>準備登校 ・担任を言わない ・学級が分かる物を置かない ・6年生への励ましの言葉を伝える(自覚を持たせるような声掛けや称賛をする)</p> <p><input type="checkbox"/>配布物の確認 ・配付物一覧の作成する ・名前の確認をする ・他学年とも確認し合う</p> <p><input type="checkbox"/>「新年度スタートに向けて」※資料①</p> <p><input type="checkbox"/>教室準備 ・ユニバーサルデザインを意識(戸棚・前黒板など)</p>	<p>1時間目</p> <p><input type="checkbox"/>始業式 ・担任発表の時、明るく元気に大きな声で「はいっ!」という ・笑顔で全員に目を配る ♡ほめる材料を見つけておく</p> <p><input type="checkbox"/>担任の自己紹介 ※資料②</p> <p><input type="checkbox"/>教科書配付 ・教科書を取りに行く人数を決めておく ♡子供たちの温かいやり取りをほめる ・全員が確実に受け取るようにする</p> <p><input type="checkbox"/>保健関係等書類配付(封筒入) ・提出締め切り日を伝える ※必ず封筒も回収する</p> <p><input type="checkbox"/>手紙類配付(封筒入) ・配付一覧を作る ・学年だよりのテーマを伝える ♡聞く姿勢がいい子をほめる ※必ず封筒も回収する</p>	<p>1時間目</p> <p><input type="checkbox"/>担任の思い(学期ごとに話す→年間通して行っていく) ・1日目に話せなかったことを詳しく話す</p> <p><input type="checkbox"/>約束づくり ※資料④</p> <p>2時間目</p> <p><input type="checkbox"/>個人写真・クラス写真⇒教務部の人にとってもらうのもあり ・撮る場所と人の確認</p> <p><input type="checkbox"/>日直(朝の会・帰りの会) ・学年で相談する(人数・順番・内容)</p> <p>3時間目</p> <p><input type="checkbox"/>委員会(5・6年生のみ) ・代表委員は1年生を迎える会の準備のため早めに決める必要がある。 ・前年度の担任に配慮事項を確認する。</p> <p><input type="checkbox"/>当番(給食・掃除・その他) ・当番(なくてはならないもの)と係(クラスをよくするもの)の違いを話す ・発達段階に合わせて学年で相談する</p> <p><input type="checkbox"/>一斉下校 ・一人一人の集合場所を確認しておく</p>	<p>1時間目</p> <p><input type="checkbox"/>発育測定・視力検査 ・体育着で登校するよう前日に連絡する ・名前の順に並ぶ ・上履きを壁に沿ってきれいに並べる ・静かに行動する ・担任が記録する ・眼鏡をかけている子は、眼鏡を持たせる</p> <p>2時間目</p> <p><input type="checkbox"/>授業開き(教科開き資料参照) ・学習ルール ※資料⑤</p> <p><input type="checkbox"/>ドリル・スキル・ノート配付 ・使うタイミングで配る ・使い方を学年で相談しておく ・名前をその場で書く</p> <p>3時間目</p> <p><input type="checkbox"/>係 ・クラスをよりよくするもの ・人数は自由(2人以上) ・大事なことは次の2つ 「何をするのか」「いつするのか」</p> <p><input type="checkbox"/>給食の確認(配膳・おかわり・片付け) ・学年で相談する</p> <p>4時間目</p> <p><input type="checkbox"/>学年集会(学期が始まってすぐ) ※資料③</p> <p><input type="checkbox"/>学期ごとのめあて ・学年集会後に書く。 ・具体的な目標を書かせる。 ・めあての内容を確認する。 ・キャリアパスポートと関連させる(ファイルに綴じる)</p> <p>★4日目以降は、資料④⑥を活用して「学校のきまり」を意識させていこう!</p>

子供が自分の
思いを実現
できるように

春休み

1年間の下準備

チーム新宿スタート

助け合いながら信頼できる仲間づくり

職員会議

- ・校長先生の学校経営方針を聴く
- ・自分の役割分担を確認する

学年会

- ・学校経営方針に基づいて、学年教育目標を決めていく
- ・児童の実態と担任の思いに基づいて、学年運営の指導観を決める
- ・指導観→学年のテーマ
→学年だよりのタイトル
- ・共通認識で行動する
- ・先生の得意分野・強味→分担
- ・その他事務仕事をする

時間割編成

- ・職員会議資料をよく見て行う

準備登校

- ・担任を言わない
- ・学級が分かる物を置かない
- ・6年生への励ましの言葉を伝える（自覚を持たせるような声掛けや称賛をする）

配布物の確認

- ・配付物一覧の作成する
- ・名前の確認をする
- ・他学年とも確認し合う

「新年度スタートに向けて」※資料①

教室準備

- ・ユニバーサルデザインを意識（戸棚・前黒板など）

始業式

出会いを喜び、希望を語る～ほめてスタート

♡5Sのほめ言葉

さすが・すてき・すごい・すばらしい・最高!

 時 間 目	<ul style="list-style-type: none">□始業式<ul style="list-style-type: none">・担任発表の時、明るく・元気に大きな声で「はいっ!」という・笑顔で全員に目を配る♡<u>ほめる材料を見つけておく</u> □担任の自己紹介 ※資料② □教科書配付<ul style="list-style-type: none">・教科書を取りに行く人数を決めておく♡<u>子供たちの温かいやり取りをほめる</u>・全員が確実に受け取るようにする □保健関係等書類配付(封筒入)<ul style="list-style-type: none">・提出締め切り日を伝える※必ず封筒も回収する □手紙類配付(封筒入)<ul style="list-style-type: none">・配付一覧を作る・学年だよりのテーマを伝える♡<u>聞く姿勢がいい子をほめる</u>※必ず封筒も回収する □学年下校 □放課後の仕事	
-----------------	---	--

2 日目

生活システムをつくる ～組織と約束づくり～

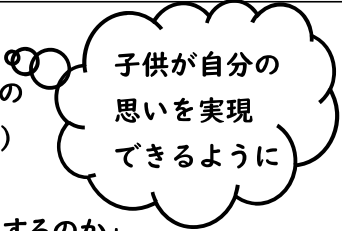
♡1人1人を大切にした
安心感の得られる学級づくり

1 時 間 目	<input type="checkbox"/> 担任の思い(学期ごとに話す) ※一年間通して行っていく ・1日目に話せなかったことを詳しく話す <input type="checkbox"/> 約束づくり ※資料④	
2 時 間 目	<input type="checkbox"/> 個人写真・クラス写真⇒教務部の人にと ってもらうのもあり ・撮る場所と人の確認 <input type="checkbox"/> 日直(朝の会・帰りの会) ・学年で相談する(人数・順番・内容)	
3 時 間 目	<input type="checkbox"/> 委員会(5・6年生のみ) ・代表委員は1年生を迎える会の準備のため 早めに決める必要がある。 ・前年度の担任に配慮事項を確認する。 <input type="checkbox"/> 当番(給食・掃除・その他) ・当番(なくてはならないもの)と係(クラ スをよくするもの)の違いを話す ・発達段階に合わせて学年で相談する。 <input type="checkbox"/> 一斉下校 ・一人一人の集合場所を確認しておく	
	<input type="checkbox"/> 放課後の仕事	

3 日目

学習ルールを確認する

♡よりよい行動を具体的な
姿で称賛し広める

1 時 間 目	<input type="checkbox"/> 発育測定・視力検査 <ul style="list-style-type: none"> ・体育着で登校するよう前日に連絡する ・名前の順に並ぶ ・上履きを壁に沿ってきれいに並べる ・静かに行動する ・担任が記録する ・眼鏡をかけている子は、眼鏡を持たせる 	
2 時 間 目	<input type="checkbox"/> 授業開き(教科開き資料参照) <ul style="list-style-type: none"> ・学習ルール ※資料⑤ <input type="checkbox"/> ドリル・スキル・ノート配付 <ul style="list-style-type: none"> ・使うタイミングで配る ・使い方を学年で相談しておく ・名前をその場で書く 	
3 時 間 目	<input type="checkbox"/> 係 <ul style="list-style-type: none"> ・クラスをよりよくするもの ・人数は自由(2人以上) ・大事なことは次の2つ 「何をするのか」「いつするのか」 <input type="checkbox"/> 給食の確認(配膳・おかわり・片付け) <ul style="list-style-type: none"> ・学年で相談する 	
4 時 間 目	<input type="checkbox"/> 学年集会(学期が始まってすぐ) ※資料③ <input type="checkbox"/> 学期ごとのめあて <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会後に書く。 ・具体的な目標を書かせる。 ・めあての内容を確認する。 ・キャリアパスポートと関連(ファイルに綴じる) 	
	<input type="checkbox"/> 放課後の仕事 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★4日目以降は、資料④⑥を活用して 「学校のきまり」を意識させていこう!</p> </div>	

※資料④

約束作り

約束はみんなが安全にかつ安心して生活できるようにするためにある。
約束を一方向的に押し付けるのではなく、必要感を持たせることが大切。

きまりや約束を守るとどうなるの？

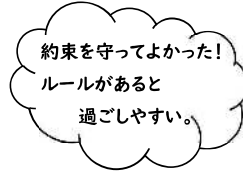
- 明確になることで、行動しやすくなる。(ユニバーサルデザインにつながる)
- 共通理解をすることで、トラブルが少なくなる。
- 学習環境が整うと落ち着いて学習でき、学力向上につながる。



「学級みんなが気持ちよく過ごすことができるようになる」

確認しておきたい学級生活の約束

- 新宿小よいこのきまりを確認
- 持ち物や筆箱の中身
- 物の貸し借りに関すること
- 忘れ物をした時の対応
- 連絡帳の書き方、提出の仕方
- 宿題の提出の仕方
- 日直の仕方
- 休み時間の過ごし方
- 給食の配膳やお代わりの仕方
- 掃除の仕方 (もくもく清掃)
- 下校の仕方
- 学習規律に関すること
- テストのやり方、終了後の待ち方
- 教室移動の仕方
- 席替えの仕方




※資料⑤

学習ルール

意識していこう！新宿18項目～共通理解・共通行動～

	内容項目	手立て
生活全般	聞くとき・書くとき・見るときを分ける	・授業の見通しを立てる
	静かに聞く	・ハンドサインを決めるなど(静かにマーク)
	話している人を見る	・ルールをはっきりさせておく
	最後まで話を聞く	例) ・「はい」の返事で発表者をみる ・最後まで話を聞いてから質問する。など
	手のあげ方 返事 「～です。～ます。」	・できなかつたらやり直す(1回くらい) ♡つぶやきを大切にする ♡よい例をほめる ・習慣化(健康観察の時など) 例) 授業中、全員が手を挙げられるようにハンドサインを変える。など
授業前	授業準備	・挨拶後着席させ、授業準備をする ♡評価をする(黒板に花丸をするなどのみえる化) ・ミッションとして取り組む ・引き出しと筆箱の中身を掲示しておく
	チャイム着席	
	筆箱の中身	
	引き出しの整頓	
授業中	号令(立ち方・あいさつ)	・声掛け(ぐー・べた・びん) ・徹底させる(待つ・一緒にやる・やり直す) ・机の上の掲示物をつくる
	姿勢(足をしまう・椅子をひく)	
	机の上の整頓	
話し合い	下敷き	・習慣化 ・グループ作り ・発問は具体的に ・終わる前にあと〇分と声をかける ・「話し方名人」「聞き方名人」「話し合い方名人」を参考にする
	おへそを向け合う	
	タイム(始め・終わり)	
	全員が話す	




引き出しの中身(例)

- ・クーピー(色えんぴつ)
- ・セロテープ
- ・のり

+

- ・クレヨン
- ・コンパス
- ・ポンド
- ・カスタネット

※学年や単元に応じて追加。
※実態に応じて保管方法を工夫する。



机上の整理整頓(例)

- ☆タブレットは机からはみ出さない
- ☆いらぬものはしまう
- ☆下じきをつかう

※教科等で配置が変わる場面もある。

新宿小 よい子のきまり

令和5年度

東松山市立新宿小学校

登校

- ◎体育帽子をかぶって登校する。
- ◎勉強道具以外のは、学校に持って来ない。(文字を書くときは鉛筆を使う)
- ◎通学班で通学路を通り、交通のきまりを守って安全に登校する。(忘れ物は、取りに帰らない)
- ◎欠席するときは、通学班長に連絡し、学校へは連絡カードまたはメールを送る。(電話での連絡はしない)
- ◎7時50分～8時10分の間 に学校に着くようにする。

学校での生活

- ていねいな言葉遣いを心がける。(友達を呼ぶときは「～さん」で)
- 名札をつける。(1年生は家から、2年生以上は校内のみ)
- 学校へ来たら、朝の準備をしてから外遊びをしよう。
- 休み時間中に、次の授業の用意をしておく。
- 業間休みは、外で元気に遊ぶ。(体育帽子をかぶる)
- 廊下、階段は、静かに右側を歩く。
- 駐車場、バックネット、体育小屋、特別教室、夢の広場、昇降口前、ベランダでは遊ばない。
- 校舎内外での危険な遊びはしない。
- 学校での服装
 - ・外へ出るときは、体育帽子をかぶる。

<体育時>

- ・体育の時には学校指定の体育着を着る。
- ・体育着、体育帽子、水着には学年・組・名前を書く。

☆体育のときは、体育着の下にハイネックや長袖のTシャツを重ね着しない。寒ければ、学校指定のジャージを着る。

☆体育のときは、タイツ・レギンス・ひざ上のソックスは不可です。

<清掃時>

- ・体育帽子をかぶり、清掃に適した服装で行う。
- ・時間いっぱいもくもく清掃を行う。終わったら近くをきれいに掃除する。

<給食時>

- ・給食当番の人は、エプロン、マスク、白帽子等をつける。

下校

- 学年下校で帰る。
- 決められた通学路を通して帰る。(寄り道をしない)

家での生活

- ※家庭に帰ってからの生活は、保護者の適切な判断のもと、保護者の許可を得てから行動する。
- ◎外出するときは、家の人に行き先と帰宅時刻を言う。(市の『よい子の鐘』が鳴ったら帰る)
- ◎自転車は、交通ルールなどを守り、安全な場所で乗る。
- ◎お金・コインの貸し借りや、おごりっこなどはしない。
- ◎子どもだけでのショッピングモール、ゲームセンターなどへの出入りはしない。
- ◎危険な遊びはしない。(エアガン、川や沼、道路など)
- ◎ゲームやスマートフォン、携帯電話の使用時間を家の人と決める。
- ◎親の許可を得なければ、SNS、ネット上のゲームなどは、利用しない。

例) LINE、TikTok、YouTube、Twitter、Facebook など

複線型授業の流れ(新宿 Ver.)

	教師	児童
導入	・課題の見通しをもたせる(ゴールの明確化)	・課題の見通しをもつ
自力解決	・1～2分必ず自力解決する場面を設ける	・1～2分自力解決をできるところまで行う
複線型	<p>・複線型の確認(モデル図)</p> <p>・形態を選択させる</p> <p>・学習場所に移動させる</p> <p>※支援を要する児童については、あらかじめ把握しておき、学習形態の移動をスムーズにできるようにする</p> <p>・一人になる児童を見取る(複数回)</p> <p>・各グループ等を机間指導し声をかけていく。</p> <p>【有効な声かけ】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「なんで？」</p> <p>「どうして？」</p> <p>「どうやったの？」</p> <p>「考えをノートにまとめておいて」</p> <p>「違う考え方あるかな」</p> </div> <p>※ゴールから遠ざかったり、止まってしまったりしているグループには机間指導しながら声かけ(他グループの考えを見に行ったり、課題の再確認)をしていく</p> <p>・ストップウォッチが鳴ったら席に着かせ、ノートをまとめさせる(1～2分)</p> <p>※机間指導しながら発表児童の目星を見つけておく(発表順番も)</p>	<p>・形態の選択をする(挙手)</p> <p>☆学習道具を持ち、それぞれの場所に移動する</p> <p>・考えについて話し合い、ノートに記述していく。</p> <p>・一つ考えたら複数の考えを考えていく。</p> <p>※全員が説明できるようにしておく</p> <p>・ストップウォッチがなったら自分の席につき、話し合ったことをノートにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div>
複線型の児童の流れ		
①複線型の形態を選ぶ		
②学習用具を持って移動する		
③メモをとりながら課題について話し合う		
④時間があったら他の考えについて出し合う		
⑤タイマーが鳴ったら、自分の席に戻る		
⑥自分の席でノートに考えをまとめる(1～2分)		
練り上げ	<p>・話し合ったことを出させ、説明させる</p> <p>・同じ考えや補足説明があるか確認する</p> <p>・キーワードになる言葉は繰り返し聞き返す</p>	・考えたことを発表する

算数授業開き～「算数っておもしろい！！」～

新宿小の子供たちのよさ(素直、明るい、ついしゃべりたくなる)を強みに授業づくりをしていきましょう。

新宿小では、「なんで？どうして？」のつぶやきを大切に、45分間考え続ける全員参加の授業を目指しています。

教師の腕の見せ所は、①授業のねらいにそったつぶやきを拾い、いかに全体に広め、深められるか。
②全員が思考するしかけ(問題提示、切り返し発問など)ができるか。

また、昨年度の研究協議会では「つなぐ・つなげる」が、キーワードに上がりました。

- ◇子供同士の思考をつなぐ
- ◇算数の系統性をつなぐ
- ◇既習事項と新しい学びをつなぐ
- ◇板書を通して、多様な考えをつなぐ
- ◇子供と子供、子供と教師の関係をつなぐ(学級経営)

授業が終わった後に、「先生、この問題は…」「先生、この場合だったら…」と子供たちが自ら学び続けるような授業を創っていきましょう。

【年度当初の算数づくり】

	しかけ アイディア 声かけなど	メモ
導入	<p>【問題提示のすぐできる工夫】</p> <p>○日常生活と結びつけ、教師の家庭生活の話から導入！子供たちは、先生方の暮らしぶりに興味があります！</p> <p>○教科書問題の登場人物を変更するだけでも、導入の意欲はUPします！ 例(学年団の先生の名前、ドラえもんなどのアニメ、教師の家族が登場)</p> <p>☆ドラえもんは、キャラクターの性格と知性がイメージしやすく馴染みやすい。のび太は誤答、できすぎ君は正答等。また、その逆転があっても面白い。</p>	

<p>導入</p>	<p>○低学年は、具体物の操作をたくさんしましょう。 具体物→半具体物→抽象的なもの、数の世界へ 中・高学年でも、「手元での操作を」大切にしましょう。 (例)4年生「角の大きさ」のパックン・6年生「対称な図形」</p> <p>☆子供たちが問題と出会った時に「やってみよう！」と思える導入の工夫を！</p> <p>【問題をノートに写す時】 「先生と同じスピードで書こう。」「同じスピードで書けた人？」 T「この続き、どうなるかわかる？」 C「あわせて、なんこですか。」 T「どうしてそう思うの？」</p> <p>☆丁寧に書いている子、同じスピードで書けた子、問題をイメージし続きがどうなるか考えながら書いている子、字を書くのが苦手なのに頑張って書いた子をほめていきましょう。</p>	
<p>自力解決 練り上げ</p>	<p>【自力解決中】 「ここは、自分で考える時間です。」 「ここは、しゃべらずにいこう。」 ☆授業にメリハリを！ 「一目で見てわかるように、算数のアイテムを使ってノートにまとめてごらん。」 「考えが書けた人は、他の考えがないか、考えてみましょう。」 「〇〇さんは、丸図を使っているね。なるほど。」 ☆個人を称賛し、全体へ広める。</p> <p>【誤答を取り上げる】 クラスに数名いる誤答に教師も乗っかっていくと、ざわつきが生まれ、必要感のある対話が始まる。 T「なんで、これじゃだめなの？先生は、(誤答)だと思うけどな。」 C「だって、…」</p>	

<p>自力解決 練習上げ</p>	<p>T「ん～、まだ納得できないな。」 C「だから～、黒板で説明してもいいですか？」 T「どうぞ。」 ☆教師が「わからない。」と言いつけると、子供たちはより分かりやすく説明しようと、試行錯誤します。</p> <p>☆「誤答」、これは子供にとっては自然なミスが多 い。自然な発想(誤答)と言える学級の雰囲気を作り出そう！この「誤答」から、深い学びにつながる対話が生まれてきます。</p> <p>T「先生も A さんと同じ考えだけど、他にも同じ考えの人いる？」 (誤答・思い込みのミス→みんなで打破→正しい概念・深い概念へ)</p> <p>T「この間違いがあったから、みんなでいろいろなことが話し合えたね。みんなで学んでこうということだね。先生が間違っただけだね。」</p> <p>C「違うよ！僕のおかげだよ。」 T「これからも、自分の考えをどんどん言っていこうね。教室は間違ふところだ！」</p> <p>【練り上げ】 問い返し発問例 「どうして？」(理由や根拠、発想の源を明らかにする発問) 「どうやって？」(方法や手順を明らかにする) 「どういうこと？」(意味や事柄を明らかにする発問) 「〇〇さんの気持ち、わかる？」(友達の思考に寄り添う発問) 「ヒント出せる？」(子供の思いや考えをつなげる発問) 盛り上がる声かけ 「絶対？」「本当に？」「みんなもそう思う？先生は、違うけどな。」</p>	
----------------------	--	--

<p>自力解決 練習上げ</p>	<p>【全体を巻き込む】 ○一人の子が説明(発表)して終わらせない。 説明を途中で止めて、「Aさんの続きが言える人いる？」 ～Bさんが説明～ 「どうAさん、そう？」そうすると2人とも達成感がある。</p> <p>○説明(発表)を聞いて、個々にもう一度言わせる。 T「今のAさんの説明がわかった？」Cうなずく T「本当？じゃあ、Dさん言える？」(困る) T「もう一回、Aさん説明して？」 ☆さつきよりも、大事なことを落とさないようにみんなが聞こうとする。 T「説明できそう？ちょっと隣同士で練習しましょう。説明ができそうだったら、座ってね。」 ☆ペア(グループ)学習の時に、立たせて話合わせる。終わったら、座る。こうすると、気分転換になったり、「話し合わない」という意識がついたりする。</p> <p>○子供の説明の仕方例(発達段階に応じて) 「まず、次に」 「ここまでは、いいですか？」(発表は、相手意識をもって) 「例えば、…」 「たぶん、～思います。」 (「たぶん」を使っていいことにすると、子供は言いやすくなります。) ☆教師は、発表者よりもその他大勢の子に視線を向けていると聞いていない子が見えてきます。 「Bさん、今Aさんが何て言ってた？」聞いている児童にも緊張感が生まれます。</p>	
----------------------	---	--

<p>自力解決 練習上げ</p>	<p>【全体を巻き込む】 ○一人の子が説明(発表)して終わらせない。 説明を途中で止めて、「Aさんの続きが言える人いる？」 ～Bさんが説明～ 「どうAさん、そう？」そうすると2人とも達成感がある。</p> <p>○説明(発表)を聞いて、個々にもう一度言わせる。 T「今のAさんの説明がわかった？」Cうなずく T「本当？じゃあ、Dさん言える？」(困る) T「もう一回、Aさん説明して？」 ☆さつきよりも、大事なことを落とさないようにみんなが聞こうとする。 T「説明できそう？ちょっと隣同士で練習しましょう。説明ができそうだったら、座ってね。」 ☆ペア(グループ)学習の時に、立たせて話合わせる。終わったら、座る。こうすると、気分転換になったり、「話し合わない」という意識がついたりする。</p> <p>○子供の説明の仕方例(発達段階に応じて) 「まず、次に」 「ここまでは、いいですか？」(発表は、相手意識をもって) 「例えば、…」 「たぶん、～思います。」 (「たぶん」を使っていいことにすると、子供は言いやすくなります。) ☆教師は、発表者よりもその他大勢の子に視線を向けていると聞いていない子が見えてきます。 「Bさん、今Aさんが何て言ってた？」聞いている児童にも緊張感が生まれます。</p>	
----------------------	---	--

	<p>【みんなの思考がつながる板書を】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低学年はノート指導の基本。子供と同じマス目で板書をしていく。 ○中学年ぐらいから、子供たちのつぶやきや思考過程等を吹き出しに書いていく。また、クラスで算数キャラクター(Pちゃん、はかせ)などを登場させてもいい。 ○問題解決方法に名前をつけると印象に残りやすく、クラスで共有できる。 (凌雅10倍方式、〇〇作戦) ○自分の考えだけでなく、友達の考えもノートに残していくように指導する。 T「この考え方、前にもやらなかったっけ？」 C「〇月〇日に書いてあるよ。」 C「この場合でも、〇〇さんの考え方が使えるね。」 	
<p>まとめ</p>	<p>【ふりかえり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まずは、キーワードを使って振り返りをしてみましょう。 ・～わかった ・～できた ・友達の考えを聞いて～ ・学習したことをもとに ○慣れてきたら、授業のすきま時間にいつでも書いてよいことにしてもいいですね。 	

考えをまとめるとき

算数のアイテムを使おう!!

ぼーと見て、分かるように！みんなが分かるように！「プラス」

- ・フロック
- ・絵や図
- ・さくらんぼ
- ・線分図
- ・数直線
- ・式
- ・言葉

ふきだし
ポイント ①
番号 ②
やじるし

ノートに自分の考えをわかりやすく整理するには、プラス1(吹き出し、番号、矢印)を使っていきましょう。また、ポイントなどは、算数キャラクターを作ってもいいですね。

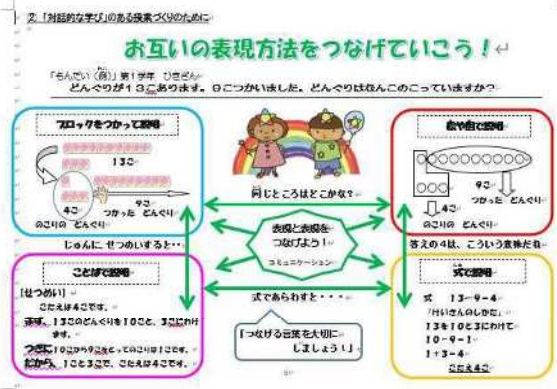
Pちゃん、はかせ君等

練り上げでは、子どもたちの考えをつないでいく意識で！

「〇〇さんの丸図と、〇〇さんの式で同じところはどこかな？」

「〇〇さんの言葉の説明を式にするとどうなるのかな？」

☆つながりを板書にも残していこう！



国語科授業開き～「国語ってこんなに楽しい！」～

新宿小の子供たちのよさ(素直、明るい、つい話したくなる)を強みに授業づくりをしていきましょう。

新宿小では、「そうなんだ！ そうだね！」のお互いの想いや考えを折り合わせて、45分間想像力豊かに考え続ける全員参加の授業を目指します。


教師の腕の見せ所は、①授業のねらいにそった意見や考えを、互いの対話から見いだしたり、新しい視点や発想を編み出したりして、全体に広め深められるか。
②全員が思考するしかけ(なぜ？ どうして？ と思う問いや、どうして、そう思ったのなどの切り返し発問など)ができるか。


そのためには・・・いつもこんなことを教師は考えています。

- ・児童理解(前学年の苦手な内容領域を把握⇒継続的な指導)
- ・教師が楽しんで作品を読む。
- ・学期末には、「国語が好き」にさせる。⇨楽しませる工夫(教材研究)
- ・メリハリのある授業(内容・時間の工夫)
- ・日頃から「言葉」を大切にする。
- ・授業の内容⇨日常生活(季節や行事、言葉など)

【年度当初の国語づくり】

	しかけ アイデア 声かけなど	メモ
【準備】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりと終わり(起立、姿勢、号令、あいさつ、余韻、着席) ⇒着席する前に、巻頭詩を唱えたり、言葉遊びをしたりして国語脳に切り替える。 ・学習用具の準備(授業が始める前に準備、忘れ物の確認) ⇒報告や相談は、丁寧な言葉で、簡潔に内容を最後まで言わせる。 	
【新しい教科書との出会い】	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書全体を見渡す。(学びの見通し) ⇒目次から学習への期待感を膨らませる。 ・巻頭詩やイラストを味わう ⇒国語の教科書には、詩・物語・説明文・新聞づくり・インタビューなど、さまざまな教材があるが、それらは、その学年に合った、意図的な編集がされている。その意図を読み取り、うまく活かせば、授業づくりだけでなく、学級づくりにも生かすことができる。 例えば、国語の教科書の最初のページにある巻頭詩は、教科書編集者の主張が一番鮮明に込められている。この詩を活用して、一年間の見通しをもたせることもできる。 	
【書く】	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方(低) ・ノートのきまり (ノートの使い方を提示し、繰り返し指導) ⇒学習した日付と曜日、単元名、めあて、自分の 	

	<p>考え、まとめ、振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の学習方法(読み方、なぞり、空書き、書き順、組み合わせなど) <p>⇒漢字ドリルを活用し、読み方→組み合わせの確認→書き順の確認</p> <p>→熟語や使い方の確認→でき方の確認→空書き→なぞり、清書する。</p> <p>⇒書き順の確認や空書き指導に ICT を活用する。</p> <p>⇒机間指導を行い、その場で添削が効果的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字×ゲーム <p>⇒間違い探し、文字あて、しりとり、言葉集め、など。</p>	 <p>インターネット 「ひつじゅん君」より</p>
<p>【読む】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・範読・追いかけ読み、共読み、一斉読み・たけのこ読み・丸読み・段落読み・群読(朗読)、ダウト読み、一文交代読み(教師・子ども)教師が入ることでテンポが生まれる 等 <p>⇒声を出して読むことが大切。色々な読ませ方があるが、教師が目的を持って読ませるとよい。全員で声を合わせて読む(一斉読み)、好きな文をサッと立って読む(たけのこ読み)、友達の音読を聞いてないと自分がどこを読むか分からなくなるので、集中した読みになる(丸読み・段落読み)新しい教材に入ったときに教師だけが読む(範読)、教師と子供と一緒に読むことで、語句の読み・アクセント・速さ・抑揚・間を教えるのに有効な読み(共読み、追いかけ読み)</p> <p>⇒複数の読み手による朗読。(群読)</p> <p>⇒音読を聞いて、内容の間違えを見つけ、ゲーム感覚で内容をつかむ。(ダウト読み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の音読 ・暗唱(通年・宿題) <p>⇒声に出して文章を読むには、漢字の読み方や意味、文章の流れや文の切れ目を考えながら読むことが必要になるため、自然と文章構造や論展開を考えるようになる。</p> <p>また、視覚と聴覚の両方が刺激され、文章理解も進む。暗唱は、脳を活性化し、日本語の感性を養う。</p> <p>⇒宿題に出すまえは、範読または共読みをする。(デジタル教科書でもよい)</p>	
<p>【話す】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し方」(話すときの基本的なきまりを掲示しておく、安心して話すことができる。) <p>⇒みんなの方に体を向けて、みんなに届くような声で話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞き方」(聞くときの基本的なきまりを明確にするとよい。) <p>⇒話している人の方を向いて聞く。うなずきなが</p>	

	<p>らしく。最後まで聞く。話している人が何を言いたいのか、考えながら聞く。</p> <p>⇒教師の話の聞かせるときは、緊張感をもたせる工夫をする。(1回しか言わないよ、と前置きをしてから話す。全員と目が合ってから話すなど。)</p> <p>【4・5月は特に「話を聞く」ことに重点を置いて指導していく】</p> <p>T「先生(友達)が話を始めたら、絶対にしゃべらないよ。これは、クラスのルールね。」</p> <p>T「今、〇〇さんが話しているよ。手遊びしていたら、話は聞けません。」</p> <p>・「発表の仕方」</p> <p>⇒「発表します」と言って、聞く側の「はい」の返事を聞いてから話す。発表の環境が整う。</p> <p>⇒学年の発達段階に応じて、話型を示しておく。発表の手助けとなる。毎日の授業で活用するとよい。</p>	
【姿勢】	<p>・授業中の姿勢 (合言葉などで、分かりやすく、繰り返し指導)</p> <p>⇒疲れが溜まりにくく、集中力アップする。</p> <p>・良い姿勢について</p> <p>⇒体と机の距離はグー1つ分、足は床にペタ、背筋をピンと伸ばす。 それが聞く姿勢。</p> <p>⇒どうしても、手を動かしてしまう人は、手を後ろにする。</p>	
【授業規律】	<p>・授業に関係ない話はしない。</p> <p>・質問は手を挙げて発言する。</p> <p>・呼ばれたら、「はい」と言って立つ。</p>	

【全員が覚える！詩の暗唱】

- ①詩を音読する。色々な読み方で、繰り返し読む。(変化のある繰り返し)
- ②ノートに視写する。(教師も黙って書く姿を見せる。)
- ③終わった子は、詩にあう絵を描いている。
※終わった子が何をして待っていたらいいのかをきちんと伝えておく。
- ④意味の分からない言葉、頭の中で絵が思い浮かばない言葉をクラス全員で確かめる。
- ⑤暗唱していく。
 - ・黒板を見ながら、一斉読みをしていく。
 - ・黒板の文字を少しずつ消していく。→一斉読み→文字を消していく→一斉読み この繰り返し
- ※少しずつ文字が消えていくことでスモールステップで暗唱ができる。
- ⑥最後は、黒板に書いた先頭の文字だけになる。(できたら全部消してもいい)
- ⑦暗唱ができれば、大いに褒めていく。

教科書の巻頭詩や詩の単元、十二支や春の七草など、子供たちは楽しく覚えていく。

体育科授業開き～「体育って楽しい！」～

新宿小の子供たちのよさ(素直、明るい、動きたくなる)を強みに授業づくりをしていきましょう。
新宿小では、「やった！わかった！できた！」を大切に授業を目指しています。

教師の腕の見せ所は、

- ①授業や単元のゴールを明確にする
- ②全員が思考し、技に挑戦するしかけ
なぜできたか？やってみてどうだったか？のなど繰り返し発問など
ができるか。失敗例を見せられるか

【年度当初の体育づくり】

第1時	しかけ アイディア 声かけなど	メモ
整列・号令	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめなので、体育着のシャツはきちんとズボンに入れているか、ズボンのひもは出ているか、靴紐はほどけていないか、帽子のゴムひもは顎にかかっているかを確認する。(通年) ・整列は、縦と横がそろっているかを確認する。(通年) ・運動場で整列する際は、児童がまぶしくないように教師は太陽と対面になるように並ばせる。 ・体育館で整列する際も、太陽の位置を確認する。 ※主運動をどこで行うかを考えて整列する場所を考えるとよい。 	
準備体操	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム太鼓に合わせて準備運動をするのではないため、リズム太鼓のたたき音は大きくなりすぎないようにする。 ・感覚づくりの運動や主運動で使用する箇所を入念にする。 ※リズム太鼓はどこをたたいても「ソ」の音になるようにするとよい 	
心得を話す	<p>体育の授業は体と心を健康にしていくために教科としてある。国語の漢字や算数の計算と同じでいきなりやってできるものでもないの、長い時間をかけて行っていく必要がある。もちろん、クラブチームの育成ではない。なので、できる・できないではなく、チャレンジしたか・チャレンジしてどうだったかという過程や結果に対する反省を大切にしている。</p>	
学習規律について話を する	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業はケガが起きてはよくないため、規律が大切である。整列の仕方(気をつけ、前ならえ、なおれ、右向け右、回れ右)、座るときの姿勢(体育座り、立て膝、立ち見) 	

<p>技能面の確認</p>	<p>・走ってみる、上ってみる、回ってみる、跳んでみるなど遊びながら確認する。 (鬼ごっこ)(上り棒)(鉄棒・マット)(台・とび箱) 例) 走の運動遊び、短距離・リレー ①立って走る ②座って笛が鳴ったら立ち上がり走る③反対側に座ってからスタート ④うつ伏せからスタート ⑤仰向けからスタート ⑥5回ジャンプしてからスタートなど ・普段しないようなことも取り入れて遊びながら多様な動きを取り入れていく。 ・体育館では走ってエバーマットにダイブする経験も入れてみては…？ ※遊びながら人間関係も見ると学級づくりにも活用できる！</p>	
<p>第2時以降</p>	<p>しかけ アイディア 声かけなど</p>	<p>メモ</p>
<p>学習規律</p>	<p>・学習用具の準備の仕方について、挿絵を活用しながら説明する。ただ「〇〇しなさい」ではなく、なんでいけないのか、どうしなければいけないのかも説明する。 例) マットは4人で持ちましょう。引きずってしまうと破けてしまいます。声を掛け合わないと転んでしまいけがをします。なので、持ち上げる時は「せーの」と言いましょう。</p>	
<p>感覚づくりの運動</p>	<p>・主運動につながる動きであるか(跳び箱運動の単元で腿上げをするなどは望ましくない)</p>	
<p>主運動</p>	<p>・1時間で何を習得させたいかを明確にしておく。 ⇒そのためには、昨年度までに何をどの位取り組んで、身につけたか ・単元を工夫する ⇒低・中学年では、ストーリー性(マット忍者になろう(マットを使った運動遊び)・ モンスターボールを投げてポケモンゲットだぜ!(ボール投げ遊び)など ⇒高学年では、ワールドカップ・WBC・オリンピックなど時事に関するもの ・チーム単元では、勝敗を競うものでもあります。 しかし、負けてばっかだと意欲が低下します。な</p>	

ので、ルール工夫や場の工夫をするとよい。

【4月の体育授業について】

4月の体育授業は、体づくり運動や走の運動遊び(低)、短距離・リレー(中・高)が年間指導計画に位置付けられています。

体づくり運動では、アイスブレイクもかねて「鬼遊び」や「いうこといっしょ(反対)、やることいっしょ(反対)」などをしたり、多様な動きで「ボール渡し競争」や「棒キャッチ」をしたり体を多様に動かせることのできる動き(ペアやチームでできるもの)を行うとよい。

走の運動遊びや短距離・リレーでは、様々な姿勢からスタートする短距離走やチームに合わせて近道ゾーンを入れたりリレー、自分たちでコースを決めたリレー(距離は統一させる)などをする。チーム競技なので、勝敗だけでなく、応援や規律も指導するとよい。兄弟チームを作成して応援させたり、ファイトコールを考えさせたりするとよい。

【リズム太鼓と笛の役割】

リズム太鼓はあくまでもリズムをとるものである。スキップやギャロップ運動などをさせるときに有効である。準備運動の時にも活用する。太鼓のリズムの音で体操するのではなく、自分の中でリズムを取りながら行わせられるとよい。リズム太鼓は手がふさがるが、口はあくのでしっかりできている児童を称賛していく。

笛はスタートの合図や支持したいときに動きを止める時などに使用する。笛が何回なったら座る、移動するなど4月に決めておくと年間通して指導しやすい。ただ、口がふさがってしまうので、声をかけるのが難しい。

【言葉がけについて】

言葉がけの種類

内容	抽象的	具体的
肯定的言葉がけ	うまい よかったね	腕をふるリズムがいいね しっかり膝が曲がっていてよかったね
矯正的言葉がけ	こうしなさい もうっとうして	後ろに引く方に力を入れてみて かかとが地面に着くように意識してみ
否定的言葉がけ	だめ そうじゃない	みんなどのようにジャンプしているか見てみて さっきどのように説明したっけ？

肯定的且つ具体的な言葉がけが多いと子供たちの動きは活発になります。1時間(45分)の授業で90回以上の言葉をかけられるとよいとされています。